

# 国立科学博物館が所蔵する関東大震災の油絵・写真

室谷智子(国立科学博物館)

## § 1. はじめに

国立科学博物館(以下、科博)は、関東大震災による被害写真をデータベースにて公開している(国立科学博物館地震資料室, [https://www.kahaku.go.jp/research/db/science\\_engineering/namazu/03kanto/03kanto.html](https://www.kahaku.go.jp/research/db/science_engineering/namazu/03kanto/03kanto.html)). これらの写真の大部分は、東京帝国大学地震学教室に保管されていたものである。

これら以外にも、科博では関東大震災に関する写真を多く所蔵している。今回は、まだ紹介していない写真や油絵について述べる。

## § 2. 震災直後に科博が集めた油絵

科博(当時の名称は東京博物館)は、地震による被害こそ少なかったが、他施設に貸出していた資料をのぞいて全て地震後の火災によって焼失してしまった。その直後から、職員は被害の調査や震災関連の資料の収集を行った。その時のものと思われる写真が、ガラス乾板や紙焼き写真として多く残っている。これらの一部はすでにデータベースにて公開しているが、未公開のものも多い。

現在、関東大震災後の様子を描いた油絵が、13点残っている。昭和初期の物品管理台帳を確認すると、本来は全部で20点の油絵があったと思われる。科博の百年史によれば、震災後に復旧した博物館において、「関東大震災火災参考品」として「震災時の惨状並被害の実況を描ける油絵」を展示したようであるが、これらはいつ最後に展示をされたのかは不明である。描かれている題材としては、震災時の様子が2点、被害の様子が5点、避難中や避難後の状況が6点であった。それらのうち4点は、同様な構図の写真が見つかった(図1)。写真はモノクロのため、油絵での展示は意義のあるものであったと思われる。しかし、残念ながら作者は不明である。

長く保管されている過程において、作品にはかなりの痛みが見られた。埃をかぶり、キャンバス地には破れやへこみ、冠水の跡も見られ、カビも発生していた。2023年に関東大震災から100年を迎える前に、これらの修復を試みることにした。長期の保存、展示に耐えられるように、紫外線をカットするアクリルや額を装着し、専用の保存箱に入れて保管する予定である。修復したものを科博のデータベースにて公開する予定である。

## § 3. 撮影者不明の写真

最近、古書店から関東大震災の幻灯とガラス乾板

を入手した。幻灯は、京都の古書店がイギリスで見つけたものとのことであった。50枚の幻灯が木箱に収められていたが、全てが関東大震災に関するものではなく、日本の風景のようなものや、1908年メッシーナ地震の写真も数枚あった。幻灯の角には、「MAKERS NEWTON&CO.LTD. 37 KING ST. COVENT-GARDEN LONDON」と、ロンドンの会社名のシールが貼ってあった。しかし、イギリスの研究者らが日本に来て撮影した写真がオリジナルなのかどうかは現時点では不明である。数枚は、すでに出回っている写真や絵葉書を撮影したと思われる。

ガラス乾板は個人蔵だったと思われるが、79枚の乾板と12枚のネガフィルムがまとめられていた。震災後の被害の様子に加え、復興後の様子も撮影されていた。ただし、撮影場所は不明なものが多く、各報告書などの写真も確認しながら、今後整理する必要がある。



図1 津波によって伊東の県道に運ばれた漁船。(上)油絵、(下)写真。

謝辞: 写真整理の一部は、JSPS 科研費 JP18H01289 によって実施されています。記して感謝申し上げます。